

安全・安心を担う人材を育てる

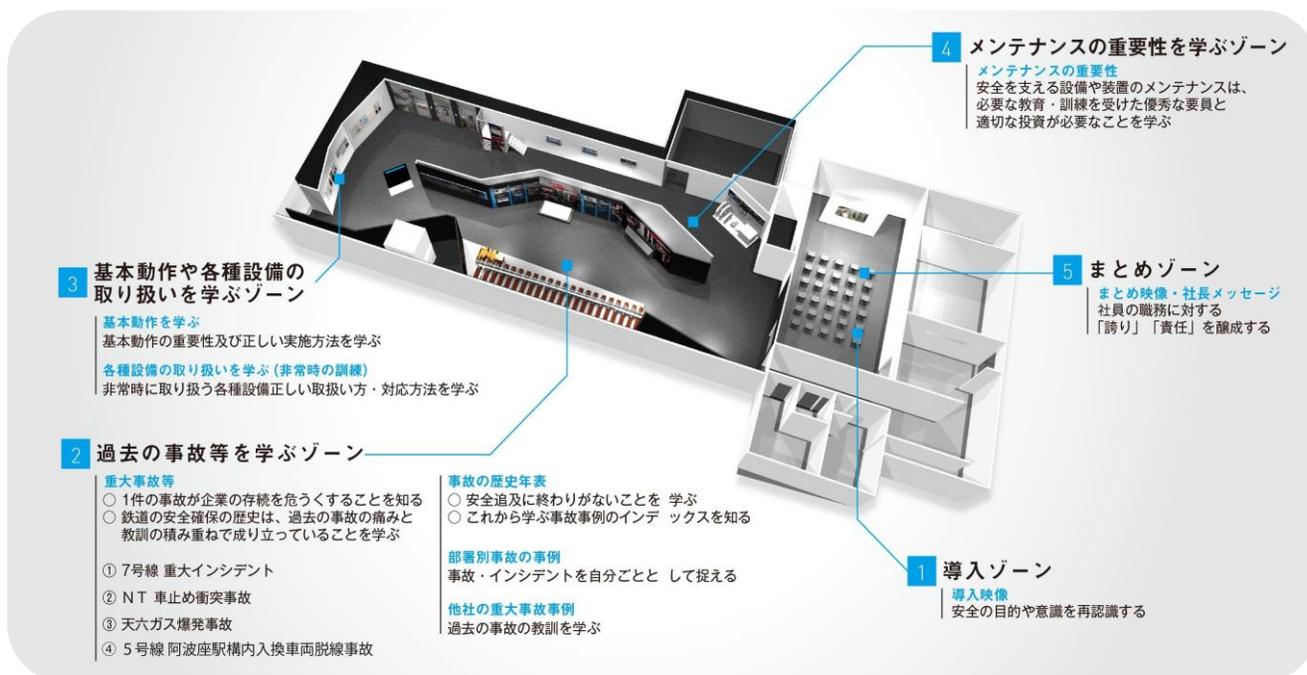
地下鉄・ニュートラムの安全・安心は、社員一人ひとりの意識・行動のもとに確保されています。その意識・行動を育むために、Osaka Metroでは人づくりに力をいれています。

全社員への安全研修

全ての社員が、職種を越えた研修を通じて自分たちに「何が必要なのか」、「何をしなければならないのか」を考える研修を、輸送の生命館（安全研修施設）で行っています。

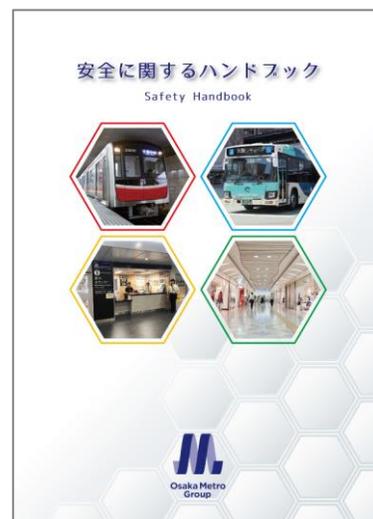
輸送の生命館での安全研修

輸送の生命館において、過去に発生した事故やトラブルの疑似体験を行い、その原因や背景、現在定められているルールや取扱いが何のためにあるのかを学び、同様の事故等を繰り返さないという意識を高める体験型研修と、鉄道事業を安全に運営するための基礎的な知識や事例を基に事故等の予防策を考えるなどして、気づく力、考える力及び行動することの重要性を学ぶ研修を行っています。



2019年度の安全研修内容

	ねらい・主な内容
(1)導入映像	事故を絶対に起こしてはならず、お客さまを安全に目的地にお運びすることが重要な使命。そのために、過去の事故や災害から学び、気づく力、感受性を高める必要があることを認識させる。
(2)安全に関するハンドブックの解説	“安全・安心の追求“というテーマについて、心に刻むべき考えをまとめた「安全に関するハンドブック」に対する理解を深める。 ● 安全に関する基本的な考え方・安全に関する方針 ● 過去の事故・トラブルに学ぶ ● 安全最優先の企業風土の構築に向けて
(3)2018年度自然災害の振り返り	いつ起こるか分からない自然災害に対して、普段からの備えや訓練を行うことにより、個人や組織の対応力を向上させることの重要性を認識。 ● 台風21号を大阪北部地震の被害状況の紹介 ● 災害を通じて見いだされた課題とそれに対して実施された対応(ルールや運用の見直しなど) 紹介 ● 災害時に緊急章を使用することへの啓発
(4)過去の事故の振り返り(ニュートラム事故)	過去の事故を振り返り、絶対に重大な事故を起こしてはならないという決意を強める。 ● 自動運転システム(ATO)の紹介、横浜シーサイドラインの事故の紹介 ● ニュートラム車止め衝突事故の振り返り(生命館展示にて)
(5)社長メッセージ	安全研修を振り返るとともに、安全を支えるのは一人ひとりの意識であること、安全はすべてに優先するとのメッセージを発信。



安全・安心を担う人材を育てる

| 専門研修・訓練（運輸系の研修等の一部を紹介）

運転士の養成・訓練

お客さまに最前線で安全を提供する立場にある運転士は、身体的・精神的な資質のほかにさまざまな知識・技術の習得が必要です。

国土交通省から指定された動力車操縦者養成所において、専属の教師が自身の経験などを含めた幅広い教育を行うとともに、実際の線区における指導操縦者による細やかな電車の操縦訓練により、安全意識の高い運転士の養成に努めています。



異常時対応力を高める訓練

故障や災害などの事象への適切な対応力を高めるため、各乗務所に設置した運転シミュレータを用いた訓練や、異常時にお客さまの適切な避難を想定した避難誘導訓練などを行っています。



駅係員による信号保安装置故障時の対応訓練

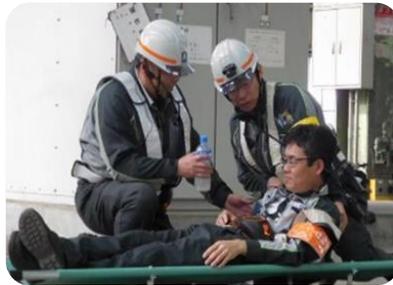
輸送指令所から駅の信号機を遠隔制御できなかった場合に備えて、当該駅の信号制御装置を操作して電車の安全運行を確保する訓練等を行っています。



| 専門研修・訓練（保守・技術系の研修等の一部を紹介）

電気部

「災害を想定した訓練」では、保守作業中、作業責任者に労働災害（熱中症）が発生した場合を想定し、作業員だけで、救急要請・応急処置及び列車防護について臨機応変に対応を行う訓練を実施しています。



車両部

万が一、車両が脱線したことを想定した脱線復旧訓練、車輪が固渋して回転しなくなった場合を想定した車軸不回転の訓練、また、洪水の際に地上の検車場から地下にある本線への水の流入を防ぐため、鉄扉の開閉状況確認も含めた取扱い訓練なども実施しています。



工務部

過去に発生した保守用作業車脱線事故を教訓とし、万一の事態が発生した場合においても安全かつ迅速な復旧対応ができるよう、工務部と電気部で保守用作業車合同脱線復旧訓練を実施しています。



建築部

事故やトラブル、自然災害発生時において柔軟に対応できる個人と組織の危機対応力向上を図る事前通知なしのブラインド方式による情報伝達・対応訓練を実施しています。また、新規採用者を対象に、地下鉄という特殊な環境における建築施設を理解していくため、基本ルールや手順の理解を深めることを目的とした机上や工事現場でのサポート研修を実施しています。



安全・安心を担う人材を育てる

| 専門研修・訓練（保守・技術系の一部を紹介）

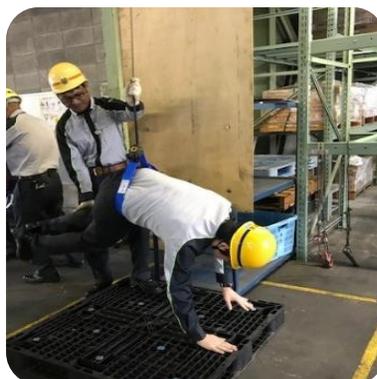
労働災害体感研修

労働災害に対する教育は、机上教習では臨場感がなく、災害時の本当の怖さを伝えきれないことから、安全に対する意識を高めるため、危険体感施設（実際に危険を体感できる施設）にて体感研修を実施しています。

※体感研修の一例を紹介

墜落制止器具装着体感

墜落制止用器具の種別や正しい使用方法（着用位置、締め方など）の説明と、正しい装着と正しくない装着時の危険度を体感



胴ベルト型装着体感



ハーネス型装着体感

脚立の特性と正しい使用方法を体感

脚立の特性を知り、正しい方法での使用が、安全かつ作業効率の向上につながることを体感（2段目に乗る方が体が安定し、且つリーチ距離も伸びることを体感）



壁押し体感



リーチ距離の測定

| 発表会等を通じた知識・技術の研鑽と展開

研修・訓練で多くの知識や技能をインプットするだけでなく、コンテストや発表会を通じてアウトプットすることで知識や技能の定着化、他者とのコミュニケーション活発化を図り、安全・安心の更なる向上に努めています。また、表彰を行うことで、個々人のモチベーションの向上も目指しています。

第二回運転部コンテスト

乗務所ごとに選抜された運転士が運転技能及び知識を競いました。優良乗務員を表彰することで、士気の高揚及び運転技術の向上を目指しています。



電気技能競技会

保守用作業車が、トラブル等により本線上で動かなくなった場合を想定した脱線復旧を行っております。各所属が復旧方法を披露し、参加者相互で再確認することで、不測の事態において、速やかな対応が出来ることを目指しています。



第一回車両部コンテスト

営業線において列車異常が生じた場合、検車場での列車振替までの手順の的確さについてコンテストを実施しました。車両指令から列車異常発生との連絡を受けて、代替車両を本線に送り出すまでの手順を審査しました。今後もテーマを変えながら実施していきます。



保線業務改善発表会

保線管理事務所の各所属で実践している、業務を安全かつ効率よく実施するための機器工具の改良や業務の工夫、改善に関する取り組みについて、保線業務改善発表会を開催しています。



建築工事安全大会

工事受注者を対象として、過去に発生した事故の芽事象を再確認して同じ失敗を繰り返さないことを周知するとともに、講師によるヒューマンエラーに起因する事故や労働災害防止の徹底を目指した講演会を開催しています。



安全・安心を担う人材を育てる

安全に関する取組み発表会

Osaka Metro Group全体の安全意識の向上と発表者やその所属の業務に対するモチベーションアップを図るため、2011年度より、安全に関する取組み発表会を実施しています。

2019年度（第9回）は、鉄道事業本部内の駅務部・運転部・電気部・車両部・工務部・建築部で予選会を実施（47グループ）し、本選には各部の代表が出場しました。



安全に関する気づき情報等優秀事例表彰及び

本社部門における安全の取組み発表

Osaka Metro社員の全員参加による安全意識のさらなる向上及び職場環境の改善を図るとともに、安全輸送の更なる向上を目的として、事故の芽情報（ヒヤリハット、社員の気づき）に基づいて防止対策を実施し、安全確保に顕著な貢献があったと認められる社員もしくは事業所に対し表彰を行っています。

また本社部門における安全の取組み（自分たちの業務が安全、安心の追求にどのように関係しているかについての具体的な取組み事例）の発表・表彰も、初めて行いました。



安全に関する気づき情報等優秀事例表彰



本社部門の安全の取組み発表

安全講演会

安全講演会は、ニュートラム車止め衝突事故を教訓とし、事故を繰り返さないよう、運輸部門と保守部門が一体となり、安全運行並びに事故防止の強化の取組みの一環として地下鉄・ニュートラム安全運行強化週間（毎年10月5日～11日）の期間を中心に開催しています。



安全・安心を担う人材を育てる



安全・安心を担う人材を育てる